



THE KOREA PATENT ATTORNEYS ASSOCIATION

1497-13, Seocho 3dong, Seocho-gu, Seoul 137-870, KOREA

TEL. 82-2-3486-3486 FAX. 82-2-3486-3511

平成23年3月22日

内閣総理大臣 菅 直人 様

福島原発の放射能問題解決に対する技術的緊急提案

このたびの貴国の天災地変と原発事故に対して、隣国韓国の国民として心よりお見舞いを申し上げます。そして一日も早い復興・復旧をご祈念申し上げます。

私は、韓国国会四選議員、国会科学技術情報通信常任委員長、ハンナラ党政策委員長、科学技術部長官、大統領科学技術諮問委員会委員長等を歴任し、現在は大韓弁理士の会長職を三回連任しております韓国科学技術界の元老として、特に今回の原発放射能流出の事態に対して深い憂慮とともに関心を抱いております。

現在最悪の放射能汚染を防ぐための自衛隊をはじめとする決死隊の悲壮なる覚悟、そして貴国国民の毅然たる姿勢に、全世界の人々は深い感動を抱いております。私もまた一人の人間として、死をも恐れない彼ら英雄たちの姿に深い感銘を受けました。しかしながら、この事態が落ち着いた後、全世界が注目する部分は、放射能で汚染された東北部地域の土壌をどのように浄化し、放射能被曝者をどのように治療し、被害地域をどのように再建するかに対する貴国政府と貴国科学界の対応ではないかと思われま



私は、過去国会議員時代に韓国の遺伝工学育成法等、多数の科学関連の立法を発議して国会を通過させた経験と薬学博士及び弁理士として長年蓄積してまいりました専門知識と経験をもとに、戦時状況にも等しい今回の事態が早急に収拾されることを願いつつ、その解決策の一つとして現在においては最善の技術である「複合微生物を活用した放射能除去技術」をご紹介いたしたく存じます。

最近科学者が新たに注目している微生物の驚くべき効能のうちの一つは、まさしく放射能物質の浄化作用であります。研究の結果によりますと、第一に、46億年の草創期の地球を覆い尽くした各種有毒ガス及び放射能物質は、微生物が登場することにより、これら有毒物質を摂取し、人の糞尿に該当する各種有機性物質を排泄したといえます。このような各種微生物の生存と増殖が有毒環境を浄化するとともに、人の糞尿に該当する排泄物質のために植物が育ち、今日のグリーン環境をつくる土台となったといえます。第二に、広島、長崎の原爆地域が100年間不毛の地になるだろうという予測を覆して早いスピードで浄化されたのも、微生物の作用があったことが多くの学者たちが明らかにした周知の研究結果であります。また、強い放射能においても微生物が生きることができ、さらには放射能物質を安定した物質に変えるプロセスが米国のNASAの実験により、次々に明かされています。このような点から微生物による浄化能力を集中的に用いて浄化速度を画期的に加速化することができる技術があるならば、われわれは必ず今日の危機克服のために、その技術に注目すべきであります。それが「複合微生物技術」であります。

ここで親環境技術である複合微生物による画期的な放射能物質を除去する技術を研究している科学者がおりますので、ご紹介させていただきたく存じます。その方



は、まさしく環境微生物学博士で、その家柄は六代目醸造場を営む高嶋博士であります。高嶋博士は、重金属及び放射能等の各種有害物質を複合微生物の発酵酵素を利用して分解及び除去することに関心を持ち、数十年間研究をなしてこられた科学者であります。

○ 関連論文：学術テーマ

「複合微生物動態系解析による複合発酵を用いた放射性物質・重金属・有害物質等あらゆる物質に対する分解菌・分解酵素の現生と発現による分解消失」

○ 関連サイト：<http://tidt.iugem.jp>

2001年に遡り、私が韓国政界に身をおいていたとき、台湾政府の要請で台湾を訪れた高嶋博士が台湾原子能委員会の核能研究所の専門家たちとともに、複合微生物技術を用いたセシウムの除去を証明するのを、私が台湾を訪問して直接目撃いたしました。当時セシウムが除去された浄化水を、私と原子力の専門家の数名がともに飲用した経験もございます。2003年には高嶋博士がウクライナのアカデミーからの招請を受けてチェルノブイリの原発事故の放射能被曝者に対して体内のセシウムを除去する実験を見て、その研究に対してさらに実用可能性を信じるようになりました。以上の活動に対しては、高嶋博士が証憑資料を持っています。このような実績により高嶋博士に対する私の信頼は深まり、私は国会議員時代に高嶋博士を韓国に招請し、韓国アカデミーの400名の学者の前で講演する場を設け、韓国国会でも二回にわたって講演の機会を設けたことがございます。

明らかにこの技術は、今後も科学的究明のための多くの研究が必要であります。しかしながら、明らかに実効性の側面で利用可能性が大きいにもかかわらず、この



たびのような緊迫した事態に活用されないでいることに対し、誠に残念に感じております。この際高嶋博士の「複合微生物を用いた有害物質の除去」技術を適用するならば、貴国原発事故の危機が「貴国国民の健康の危険な機会を偉大な機会とするチャンスとなるもの」であると確信するところ、高嶋博士のセシウム除去技術を強力に推薦させていただく次第であります。

また、今回の事態により韓国においても放射能汚染に対する関心が高まっているところ、複合微生物を用いた放射能汚染物質の除去方法に対して、日韓両国が共同で人類のための原子力安全技術の研究を進めることができるように、私はできる限りの努力を傾ける計画がございます。ここに、私が現在身をおく大韓弁理士会及び果川科学館で地震被害日本人のために募金した誠金を、高嶋博士のセシウム除去技術のための研究費として支援する予定であります。

あまりに周知の事実ではありますが、福島原発周辺では、放射能物質であるヨードとセシウムが検出されています。過去チェルノブイリ原発事故の際、セシウムの流出により、31名が即死し、事故後5年間に七千名余りが死亡し、七十万名が後遺症に悩まされるという痛恨の記録があります。したがって、二度とセシウムによる被害が再発しないように骨を削るような忍苦の努力と汎地球的な研究が積極検討されるべき時期と思われまます。

危機と試練により歴史を発展させてきた人類の歴史に照らし、私は今回の放射能事態を克服していく厳しいプロセスが、貴国は無論のこと、全世界の原子力発電技術の賢明な利用を一層向上させるものと信じております。何とぞ私の推薦が貴国国民の皆様にお役に立ちますよう懇切に祈りつつ、貴国東北部の被害地域が一日も早

く再建されますようお願いしてやみません。

私は貴国国民の皆様が高い科学技術と不屈の精神力により、今回の原子力発電の危機も賢明に克服し、早急なる復興を完遂なさることを信じて疑いません。

One World, One Family!

現 大韓弁理士会 会長、国立果川科学館長 李祥義